



上：金子直吉の頌徳碑前で説明を受ける参加者ら
下：祥龍寺（神戸市灘区）

縁の地・神戸で金子直吉翁の生涯たどる

1月10日・11日 山村自然楽校しもなの郷では、昨年十月に開催した「金子直吉翁を称える集い」に続いて「金子直吉ゆかりの地を訪ねるツアー」を企画し、参加者二十三人が金子直吉翁が活躍した神戸の地を訪ねました。

神戸市で活動する「金子直吉研究グループ」の案内もあり、金子直吉翁の頌徳碑や鈴木商店の女主人・鈴木よね氏の像がある祥龍寺、神戸市元町の鈴木商店跡地などを見学しました。

さらに同研究グループのメンバーと交流会も行い、金子直吉翁についてさらに理解を深めました。今後とも協力関係を深めて仁淀川町の活性化に生かすことを目指し、神戸を後にしました。

名野川小で「金子直吉勉強会」

1月18日 名野川小学校で同校の4～6年生を対象に「金子直吉勉強会」を行い、保護者や地域住民らを含め23人が参加しました。

別枝出身の吉原強氏を講師に迎え、仁淀川町（旧名野川村）で生まれた金子直吉翁について、幼少時代から全盛時代までを、坂本龍馬の話なども交えながら分かりやすく講話していただきました。

金子直吉翁が大正時代多くの企業を創り、現代の23兆円に相当する売上げと21万人もの従業員を擁していたことを紹介し、現代の書籍でも多く書かれていると説明がありました。

また吉原氏は「金子直吉さんの古里であるこ

の名野川に大いに誇りをもとう」「人との出会いを大切に、希望と志を持って頑張ってもらいたい」と呼びかけ、子どもたちも熱心に聴き入っていました。



講師の吉原強氏(右)に謝辞を述べる小学生

金子直吉とは…

慶応二年（一八六六年）、仁淀川町（旧名野川村）に生まれ、高知市での丁稚奉公から身を起こし、神戸・鈴木商店の大番頭（実質の経営者）として明治から大正時代にかけて主に神戸の地で活躍した。

当時、鈴木商店を三井・三菱財閥をもしのぐ規模の企業グループに拡大させ、世界的な「総合商社」に成長させた。

金子直吉は「財界のナポレオン」とも言われ、「神戸製鋼所」や「帝人」など、多くの企業群は現在でも第一線で活躍している。



金子直吉（本館蔵工務株式会社所蔵品）